

# 政策活動費 自民 379億円支出

## 使途公表不要 議員に20年間で

政党が「政策活動費」などとして政治家に支出し、その使い道を明らかにしなくてはならない政治資金が、2021年までの20年間で主要政党で約456億円に上ることがわかった。自民が総額約379億円でも最も多い。歴代最長の約5年にわたって幹事長を務めた二階俊博氏に最多の約50億円が支出されていた。

▼31面 見えぬ使途

## 二階氏 最多50億円

総務省が25日に公表した21年の政治資金収支報告書と、02～20年の報告書（公表時点分）を集計した。

政治資金規正法は「政治活動が国民の不断の監視と批判の下に行われるように

### 政策活動費

政党から政治家に支出される政治資金の呼び名。政治資金規正法は企業・団体から政治家個人への寄付を禁じているが、政党が政治

収支報告書によると、自民は二階氏や甘利明前幹事長ら25人に計約17億2800万円、国民民主は橋本聖二幹事長ら2人に計8200万円、立憲民主は福山哲郎元幹事長ら5千万円、社民は福島瑞穂党首ら3人に計700万円を支出。日本維新の会は政党支部から馬場伸幸代表ら3人に計約5900万円を出していた。

### 政治家個人に資金提供

政治家個人に資金提供することは可能としている。政党は支出した議員名や金額、日付を政治資金収支報告書に記載して公表しなければならぬが、政治家側は報告する義務はない。

21年までの20年分の総額は、多い順に自民約379億3千万円▽旧民主約44億5千万円（08～15年。11年はなし）▽旧民進約10億4千万円（16～17年）など。ほかに維新約2億6千万円（16～21年）▽社民約1億円（16～21年）▽国民8200万円（21年）▽立憲8千万円（20～21年）▽れいわ新選組2800万円（19～

20年）。「組織活動費」や「組織対策費」の各自で支出する政党もあった。公明、共産、NHK党は該当する支出がなかった。議員側では、二階氏が最も多額となる計約50億6千万円を受け取っていた。うち約47億7千万円は幹事長

時代（16年8月～21年9月）に計160回にわたって支払われ、1回あたり30万～7210万円だった。次いで谷垣禎三元総裁が23億1千万円、安倍晋三元首相が20億6千万円と多く、いずれも幹事長在任時期に集中していた。

自民党幹事長は取材に「党に代わって党勢拡大や政策立案、調査研究を行うために、党役職者の職責に応じて支出している」と文書で回答した。

日本大学の岩井華信名誉教授（政治学）は「政治家の資金について透明化すると、いう政治資金規正法の趣旨の抜け穴とも露骨、ブラックボックスになっている。有権者が使い道をチェックできないお金が何億円も政治家に渡ることは市民感覚からみかけ離れている。ルール改正が必要だ」と指摘している。（重輝隆 取材協力）